

東本願寺派が義援金

兵庫県南部地震

五百万円を日赤へ

被災寺院へも五百万円

浄土真宗東本願寺派本山東京本願寺(大谷光紹法主、東京都台東区)では二月二十三日、兵庫県南部地震の被災者へと義援金五百万円を台東区を通じて日赤へ寄託した。

本山では地震が起きた翌日の一月十八日に地震対策本部(本部長=月田彰英執務長)を設置。境内本堂や牛久アケイディア(茨城県牛久市)に義援金箱を設けたほか、光紹法主の見舞状と被災者への善意を募る趣意書を同派全寺院へ送った。

今回の地震により同派関係で被害を受けたのは西林寺(二階堂正純住職、兵庫県明石市)と遍満寺(河野文麿住職、大阪市西淀川区)、御寺誓山(高崎昌晃住職、神戸市長田区)など数カ寺。月田執務長らは一月二十九日、現地へ向かい、法主の名代として被災寺院を見舞った。

全国の同派寺院をはじめ、法主一家、本山職員らから寄せられた善意は総額一千万円。そのうち五百万円を宗門の被災寺院へ郵便振替で送金し、残り半分を一般の被災者へ送った。

台東区役所へは立花記久丸総務と本多良之総務局長が出向いた。立花総務らは飯村恵一区長に義援金を手渡した後、防災対策などで懇談。本山でも緊急時に備えて一千人分の食糧と水を確保しているほか、地元民の一時避難所として受け入れ態勢を整えていることを報告した。

義援金を台東区長に手渡す立花記久丸総務中と本多良之総務局長左【写真は省略】